



臨海地域の 明日を拓く

本県の南部三陸沿岸に位置する大船渡港は、古くから天然の良港として栄えてきました。

セメント工場、木材関連企業の立地とともに、臨海地域の工業活動を支える工業港として、また、県南内陸都市との物資流通港として果たす役割は、年々大きくなっています。ここ野々田地区では、昭和55年から県南内陸都市との生活消費物資のパイプをさらに太く

し、流通拠点としての機能の充実を図るため、昭和63年完成を目指し、起重機船、杭打船、サンド・コンパクション船などの作業船がフル稼働し、埠頭の埋め立てなどの工事が急ピッチで進められています。

完成すると県内では釜石港に次ぐ5万トンの岸壁を有する大型港湾となり、工業、流通の両面から地域活性化が図られるものと大いに期待されます。

